



横浜のチャレンジする中小企業を応援します!!

NEWS LETTER

IDEC ニュースレター

No.31

秋
2019

(年4回発行)

【発行】公益財団法人横浜企業経営支援財団

〒231-0011 横浜市中区太田町 2-23
横浜メディア・ビジネスセンター7F
TEL.045-225-3700 FAX.045-225-3737
<http://www.idec.or.jp>

IDEC
YOKOHAMA



IDEC



Facebook

横浜ビジネスグランプリ2020は来年2月22日開催!! 新・審査員長にユーグレナ出雲社長就任。受賞者は起業家として続々活躍中!

IDEC横浜の『横浜ビジネスグランプリ』は2020年2月22日にファイナルイベントを開催します。今回は審査員長に、ユーグレナ代表取締役社長である出雲充氏をお迎えします。横浜ビジネスグランプリの特徴は、なんとと言っても現役の起業家を中心とした審査員です。ファイナルで、横浜を拠点に広く活躍されている起業家、学識経験者、VCや金融機関から選ばれた、起業に情熱を持つ審査員を前にプレゼンできるのは横浜ならではと言えます。

また、過去の受賞者の方々も、横浜ビジネスグランプリを機に起業家として多方面で活躍されています。



代表の上田さん(左端)と「Peer Ring ピアリング」を支えるメンバー

■音楽スタジオWEB予約プラットフォーム「スタジオオル」

スタジオオル(泉区)代表の山地瞭さんは、「音楽スタジオWEB予約プラットフォーム『スタジオオル』」により横浜ビジネスグランプリ2018一般部門優秀賞を受賞されました。



スタジオオル 山地社長

このプラットフォームの強みは、ユーザーが一つのIDで複数のスタジオを予約できること。従来は各スタジオに個別に電話をかける必要がありましたが、夜中でもどこからでもストレスフリーな予約が可能となりました。その利便性が評価され、会員数は今年7月に5,000人、8月には6,000人と急上昇しています。また音楽スタジオ側にとっても売上への貢献に加え、電話対応コストの削減といったメリットがあり、契約継続率100%。契約を検討するスタジオからののお問合せも途切れることがないといえます。

会員の中から優れた演奏/歌唱動画を選びサポートを行う「スタジオオルSUPER PUSH!!!」という新サービスも開始するなど、「楽器演奏環境を革新する」という理念に基づいて事業の幅を広げています。

■女性特有のがん経験者向けSNS「Peer Ring ピアリング」

同じく2018年女性起業家賞のリサ・サーナ(青葉区)代表の上田暢子さんは、自分自身のがん治療の経験から、女性特有のがん経験者向けSNS「Peer Ring ピアリング」を運営しています。共通の経験を持つ仲間交流の場の提供と、治療による生活課題を解決するための技術や商品・サービスを生み出す企業へのマーケティング調査を中心に、がん経験者とそれを支える社会の共存に向けて2年前に起業しました。

Peer Ringコミュニティの特長は双方向性があることで、会員4,000人の1か月間の投稿は3万件を超えています。患者や経験者の温かく親身なやり取りがあり、周囲に相談しづらい悩みも共有できる貴重な場となっています。

治療中の生活を支えるケア用品メーカーをはじめ、医療機器や保険業界など、がん経験者からのフィードバックを必要とする企業からの調査などの依頼は順調に増加しており、今夏は、ピアリング会員の意見を反映させた商品開発も複数行われました。がんに向き合う人のQOLをあげるプラットフォームとして成長を続けています。

横浜ビジネスグランプリ2020からも、
さらに熱い起業家が生まれることを期待します!

エントリー期間 2019年10月7日(月)~11月5日(火) 17:00

応募用紙ダウンロードはこちらから

<https://www.idec.or.jp/kigyo/ybg/>

■ Pick Up

【女性起業家紹介】 3D技術の導入と教育をお手伝いします。

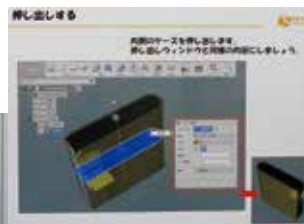
かみじま りさ
RIS3D デザイン上島理砂さん

「3D-CADが低コストで使える環境になっているので、中小企業にもっと活用してほしい。」と語るのは、RIS3Dデザインの上島さん。中小企業が試作品やサンプル品の内製化をするため、3D-CADと3Dプリンター活用のサポートサービスを行っています。

特定のメーカーにこだわらず、企業にとって最適な3Dシステム提案ができることと、わかりやすいマニュアル提供によって、初心者でも扱えるように教育できることが強みです。「60代で初めて3D-CADに触る方でも、1回で習得してしまいます。分かり易すぎてリピート注文が無いのが悩み。」と上島さんは笑います。

大手工作機メーカーで3D-CAD部門に配属されたのを振り出しに、10年以上3D-CADの設計、システム開発、技術サポート、研修教育に携わってきました。そこでニコン、ライオン、ブリヂストン等の大手企業との関係を培いました。出産・子育てのため休業した後、自分のペースで仕事がしたいと、2011年に起業。当初は3D-CADのインストラクターなどを行っていましたが、3Dプリンター販売会社にいた知人から、データのわかる人が欲しいと3Dプリンター販売支援に関わ

100ページ超の特製マニュアルで、誰でも手順通りに操作すれば作れるようになる。



RIS3Dデザイン
上島理砂さん

るようになりました。3D-CADのローエンドからハイエンドまでのノウハウと、3Dプリンターの最新技術を組み合わせ、企業のソリューション提案を幅広く行っています。3Dプリンターが扱える素材が多様化し、低価格化したことで、個人でも気軽に利用できる時代になりました。上島さんは「新しいことにチャレンジしながら、企業の方と一緒に新しいものを生み出していきたい。」と語ります。現在、大学の部内ベンチャーの研究データ作成や、研究機関との障害者用補助具開発研究支援を進めているほか、テクニカルショウヨコハマ2020の出展を予定しています。3D-CADを活用した試作品内製化をご希望の方はぜひお問合せください。

女性起業家支援の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/kigyowoman/>

問 経営支援担当 045-225-3714

～ IDEC 利用者アンケート結果～ 経営課題の上位は「人材育成・組織」、「人手不足」、「販路開拓」

7月22日から8月23日まで、IDEC利用者アンケートを実施しました。今回は中小企業及び小規模事業者を対象に、郵送によるアンケートを実施。期間中654名から回答をいただきました(回収率27.3%)。

■ 経営課題…小規模事業者では「販路開拓」が最多

業種や職位階層によって順位の変動は見られたものの、全体のトップ3は「人材育成・組織」、「人手不足」、「販路開拓」でした。また、現場に近い従業員の方が経営者層より「人材育成」「人手不足」が課題であると感じていました。

一方、小規模事業者のみを対象とすると「販路開拓」が最も多い結果となりました。(グラフ1)

■ 業種別に見た経営課題

回答者の半数近くを占める製造業では「人材育成・組織」と「販路開拓」が多かったのですが、「人手不足」はそれほど多くありませんでした。

また、サービス業では全体と同じ傾向を示したものの、卸・小売業では「販路開拓」が多く、建設業では「人材」に関する課題が顕著で、「事業承継」の課題も多いという結果となりました。(グラフ2)

アンケート結果の詳細は、ホームページに掲載しますので、ぜひご覧ください。寄せられたご意見は、今後の事業の改善や新しいサービスの企画に反映させていただきます。

●グラフ1 経営課題(回答者属性別・事業規模別)

課題	合計 n=640	回答者属性		事業規模	
		経営者層 n=558	従業員 n=71	中小企業 n=362	小規模事業者 n=268
人材育成・組織	60%	59%	53%	50%	46%
人手不足	41%	41%	49%	44%	37%
販路開拓	41%	42%	35%	35%	50%
製造・技術の向上	25%	24%	27%	27%	22%
商品開発	23%	23%	20%	24%	22%
事業承継	23%	23%	17%	20%	27%
経営戦略	19%	20%	11%	17%	22%
資金調達	17%	17%	13%	14%	21%
海外ビジネス	9%	9%	9%	10%	8%
IT・IoT導入、活用	7%	7%	7%	8%	5%
法律・税務・特許等専門分野	3%	4%	1%	3%	4%
今は、特にない	3%	2%	4%	2%	3%
その他	3%	4%	4%	4%	3%

●グラフ2 経営課題(業種別)

課題	合計 n=640	業種			
		製造業 n=304	建設業 n=92	卸・小売業 n=68	サービス業 n=97
人材育成・組織	60%	59%	51%	49%	59%
人手不足	41%	34%	24%	24%	43%
販路開拓	41%	46%	13%	59%	39%
製造・技術の向上	25%	38%	14%	9%	14%
商品開発	23%	25%	3%	40%	24%
事業承継	23%	21%	39%	13%	17%
経営戦略	19%	17%	22%	24%	22%
資金調達	17%	17%	4%	24%	23%
海外ビジネス	9%	9%	2%	10%	8%
IT・IoT導入、活用	7%	5%	1%	10%	13%
法律・税務・特許等専門分野	3%	3%	1%	4%	5%
今は、特にない	3%	3%	0%	0%	3%
その他	3%	3%	4%	3%	1%

IDEC 横浜のホームページはこちら <https://www.idec.or.jp>

問 総務担当 045-225-3700

■ Pick Up

最新テクノロジーで楽しく健康管理

メドビジランス(西区)は、「テクノロジーで健康を楽しむ」をビジョンに掲げ、日常の健康状態を可視化するビジネスを展開するベンチャー企業です。中国出身の耿社長は、日本の大学で情報工学を学び、大手コンサルティング会社に就職。医療機器業界への業務効率に向けたITコンサル支援をきっかけに、2015年に起業しました。同社の主力製品は、腕に端末を装着して筋肉の動きを見る「PULSTONE(筋電計)」と心拍数や歩数などの活動データを見る「LANCEBAND(スマートウオッチ)」ですが、世間では健康状態の見える化に対する意識がまだ低いことが課題です。そこで同社は、端末のデータをポイント化

し、商品等と交換するなど、利用者にインセンティブを与えるプログラムを取引先と共に開発しました。今年度は、IDEC横浜とともにET/IoT2019展示会(11月)や上海での展示会(8月、11月)に出展し、健康産業を中心に販路拡大を狙います。

「日本で起業し不安もある中で、IDEC横浜の無料での専門家相談は非常に助かっている」と語る耿社長。横浜は多くの研究開発企業が集積し、また世界中から多くの人々が集まるため、商品開発を行うには最適な立地だといいます。同社のビジネスの拡大に向け、IDEC横浜は支援を継続していきます。



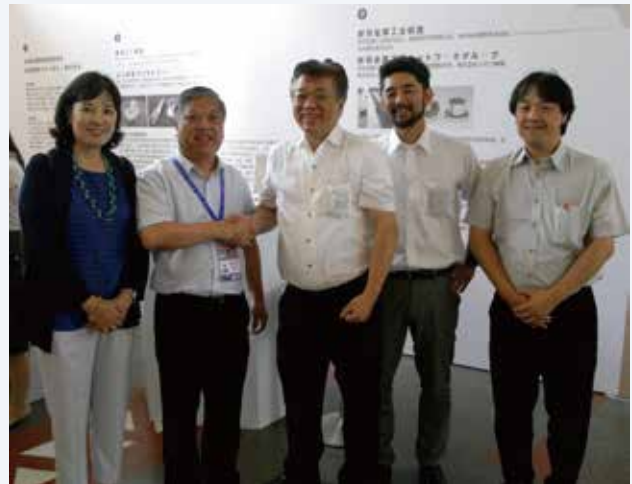
PULSTONE(筋電計)を装着した耿社長

技術支援担当の詳細はこちら <https://www.idec.or.jp/renkei/>

問 技術支援担当 045-225-3733

IDEC横浜 上海事務所レポート **イノベーション(創新)促進に向け、上海の展示会に出展!**

上海市経済情報化委員会党委員会・陸書記(上海市副市長級)(写真中央)と岩井の胡麻油(神奈川県)・岩井社長(写真右)



安田製作所・安田社長(写真中央)と中国工業設計研究院・李董事長(写真左2番目)

中国政府は2015年末、「大衆創業、万衆創新(大衆による起業、万人によるイノベーション)」という政策を掲げ、起業、イノベーションの促進を奨励しています。その「イノベーション」にかかわる展示会『国際工業設計創新(上海)展覧会』が8月30日~9月1日に上海で開催されました。

主催は中国工業設計研究院(以下、CID I)で、2014年、中国政府と上海

市政府が共同で設立した公的組織です。主に工業設計分野のイノベーションに関わる人材、技術等の資源を集約させた各種プラットフォームを構築しています。

今回、横浜から9団体・社が出展し、サンプル展示や個別プレゼンテーション等を行いました。出展者の1団体である「よこはまファクトリー」は安田製作所(旭区)をはじめとする横浜の製造業等6社で構成さ

れる共同受注グループです。同グループは、製品の企画・設計段階から客先と関与することで、試作から量産まで、最適な生産手法等を提案しています。今後、日中間のイノベーションの促進に向け、「よこはまファクトリー」のメンバー企業が有する経験豊富なノウハウをもとに、中国企業との相互補完による「ものづくり体制」の構築を期待し、CID Iとの意見交換も実施しました。

上海事務所の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/shanghai/>

問 国際ビジネス支援担当 045-225-3730

■ 新しい移動のスタイルを生み出す

インキュベーション施設「鶴見末広センター（横浜市産学共同研究センター（JRC）、横浜新技術創造館 リーディングベンチャープラザ（LVP）」入居企業 WHILL のご紹介

「すべての人の移動を楽しくスマートにする」をミッションとする同社は、車椅子型パーソナルモビリティ事業において、「WHILL（ウィル）」と呼ばれる複数の製品群を開発・販売し、国内のみならず北米や欧州等においても市場を拡大しています。

現在は、パーソナルモビリティ事業と並ぶもう一つの柱として、MaaS（Mobility as a Service）事業に取り組んでいます。その一環として高齢化等に伴う歩行困難者の増加、高齢者等の介助に関する人手不足の問題に対応するため、独自に開発した自動運転・自動停止機能等を備えた「WHILL自動運転システム」の実用化に向けた研究開発を進めています。

執行役員本部長である矢野氏は、「町田から移転し、鶴見末広センターに入居してからの5年間は活動拠点の確保、事業の成長に伴う貸室の拡張性の高さなどとい



初号機の WHILL Model A (左) と最新モデルの WHILL Model C (右)

た観点から大事な時期でした。今後はパーソナルモビリティ事業とMaaS事業の相乗効果で、より多くの方々に役立ち、ご利用いただけるものを世に送り出したい」と意欲を語っています。

横浜市産学共同研究センター（JRC）の詳細はこちら <https://www.idec.or.jp/shisetsu/jrc/>
 横浜新技術創造館 リーディングベンチャープラザ（LVP）の詳細はこちら <http://www.idec.or.jp/shisetsu/lvp/>

問 鶴見末広センター 045-508-7450

新しい保証制度のご案内

経済変動対応資金（消費税対応特例）

消費税率の引上げ前後の駆け込み需要や反動減により影響を受ける市内中小企業の資金繰りを支援するため、横浜市中小企業融資制度の経済変動対応資金に消費税対応特例が10月1日付で創設されました。

- 【特徴】●最近1か月の純売上高又は売上高総利益率が、最近3か年のいずれかの年の同月比で、5%以上減少している方がご利用いただけます。
- 融資利率 1年以内 年0.9%以内、3年以内 年1.2%以内等
 - 融資期間 運転10年以内、設備10年以内

信用保証協会は、中小企業・個人事業主のみなさまが金融機関から事業資金を借入する際の公的な保証機関です。

金融機関紹介をご希望される方のご相談も承ります。

お気軽にご相談ください

横浜市信用保証協会

検索



広告

横浜市信用保証協会

横浜市中区山下町22番地
TEL: 045-662-6623

くらしとしごと 夢ある未来

私たちはICTを通じて、豊かな地域社会の発展と夢ある未来の創造に貢献します。

Yec 株式会社
ワイヤーソリューションズ

<http://www.yec.ne.jp/>



広告

広告の内容に関する一切の責任は、広告主に帰属します。

編集
後記

本号ではIDEC横浜が支援する起業家、スタートアップ企業を中心にご紹介しました。横浜市は1月に「イノベーション都市・横浜」を宣言し、新たなイノベーションを横浜から創出します。この宣言に呼応し、IDEC横浜は女性起業家支援、ビジネスプランプリ等の施策を通じ、イノベーターの発掘及びフォローアップにも力を入れてまいります。また、今回、この夏に実施した利用者アンケートの結果も掲載しています。アンケートの詳細についてはWEBで公開しますので、ご覧ください。